

にしじ

FEB. 2009 Vol. 40



旧窪川町の山道にて

特集：高知県周産期医療の非常事態～超低出生体重児0.6%ショック～

(総合周産期母子医療センター・センター長 吉川 清志)

- Close Up No.2 ～婦人科リンパ浮腫外来～
- 高知医療センターに、世界の王さんが現る！ (病院長 堀見 忠司)
- 新任医師のご紹介
- 第22回高知医療センター職員による学会出張報告
(病院前救護体制における指導医等研修 in 神戸 (救命救急科 副医長 石原 潤子))
- 地域医療連携病院のご紹介 (医療法人野並会 高知病院)
- 高知医療センター イベント情報

◆外来診療時間◆

午前8時30分～正午
午後1時～午後4時30分

(休診日)
土・日・祝日

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

高知県周産期医療の非常事態 ～ 超低出生体重児 0.6% ショック～

総合周産期母子医療センター・センター長 吉川 清志

2007年の高知県の出生数は5,717人、出生率は人口1,000人に対して7.3%でした。1976年の高知県の出生数は11,765人出生率14.5%でしたので、30年間で半減しています。全国の出生率は1976年16.3%、2007年8.6%ですから、高知県の出生率は一貫して全国よりも少ない状態で推移しています。

高知県の周産期死亡率は1990年までは常に全国よりも高値でしたが、1991年から全国よりも低値となる年が見られるようになっていました。(図1) 新生児死亡率も1992年から同様の状態になりました。(図2) その後の死亡率の推移は、高知県の出生数が少ないため、数名の増減でこれらの統計値が全国よりも良かったり悪かったりしていると考えていました。しかし、2004年から周産期・新生児死亡率共に悪化傾向がみられ、特に2007年は乳児死亡率も加えた3つの指標が全て全国

ワースト1という不名誉な結果でした。(図1, 2)

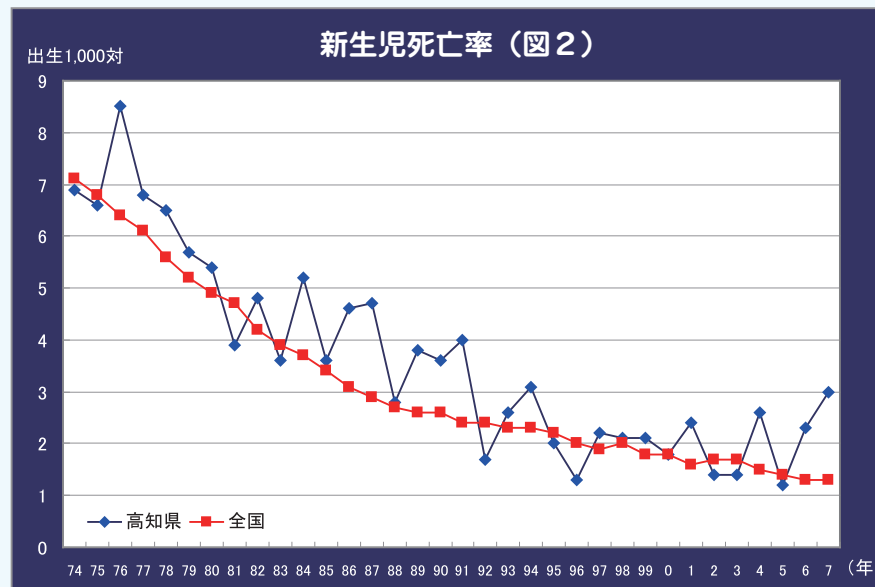
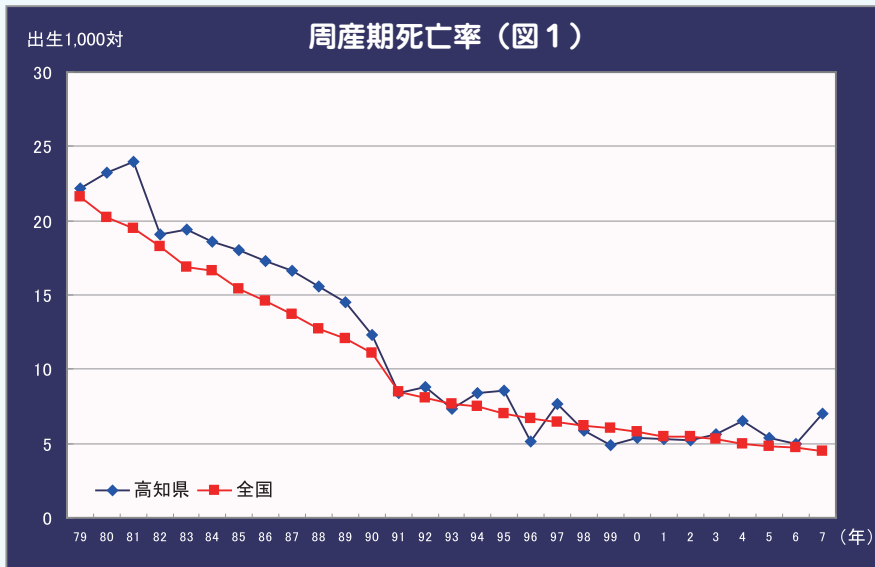
2007年の全国の新生児死亡率は1.3%でしたが、高知県は3.0%、四国の他県は香川県0.6%(全国最低値)、愛媛県1.1%、徳島県1.8%でした。ワースト2位の和歌山県の2.3%と比較しても、高知県の3.0%という数値がいかにも高値がご理解いただけたと思います。2007年の高知県の新生児死亡数は17名ですので、全国の死亡率であれば7名だけの死亡となります。

高知県周産期医療協議会の小児科部会では、毎年新生児死亡症例を1例1例検討しています。前述のように2007年は17例の新生児死亡があり、それは全て早期新生児死亡(出生7日未満の死亡)であり重症な症例が多かったことを示しています。その中で15例の症例を検討しましたが、内訳は出生体重1,000g未満の超低出生

体重児が7例、重症先天異常5例、重度胎児異常3例でした。これらの赤ちゃんの救命は非常に困難であり、高知医療センター総合周産期母子医療センターで死亡した赤ちゃんが12例でしたので、非常に残念な思いをしていました。

ところが最近、驚くべき新しい統計資料が判明し、医療機関だけでは対応には限界があり、県民全体で取り組むべき事態だと考えるようになりました。もともと高知県の2,500g未満低出生体重児の比率は全国よりも高値です。(図3) 1,000g未満の超低出生体重児の割合は、全国では2001年から0.3%で推移していますが、2007年の高知県の比率は0.6%(33名)で全国の2倍だったのです。高知医療センターにはこのうち24名(73%)が入院しています。

超低出生体重児の出生率が高いことのみが新生児死亡率高値の原因とは言えませんが、全国の2倍も超低出生体重児が生まれる背景を検討し改善しなければ、高知県の新生児死亡率などの指標の改善は望めないでしょう。

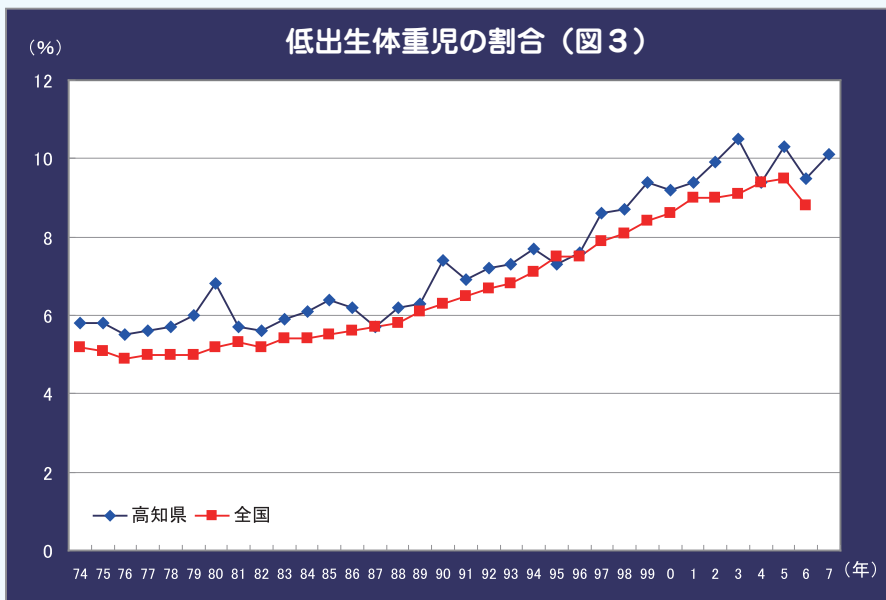


周産期死亡率、新生児死亡率、乳児死亡率は、その地域の保健衛生のみならず教育・経済などの総合的な指標と考えられています。すなわち、子育てしやすい環境かどうかを示しています。この指標が、2004年から非常に悪化している事実を高知県民が重く受け止め、県全体として取り組むべき課題であると考えます。

*周産期死亡率：出生千人に対する妊娠満22週以後の死産+早期新生児死亡

*早期新生児死亡：生後7日未満の新生児死亡

*新生児死亡率：出生千人に対する生後28日未満の新生児死亡



Close Up NO.2

～ 婦人科リンパ浮腫外来 ～

婦人科リンパ浮腫外来を併設しました

婦人科 海老沢 桂子



本年1月より、火曜日午前の婦人科外来でリンパ浮腫外来を併設することになりました。婦人科が手術療法後のリンパ浮腫で悩まれる方々が、安心して受けられる治療環境づくりをめざしています。

日常生活指導、スキンケア、セルフマッサージの方法、弾性包帯やストッキングの着用指導を行い、少しでも苦痛を和らげることができればと考えております。といいましても、まだまだ準備不足であり、当面関係者の皆様にはご迷惑をおかけすることが多いとは思いますが、スタッフ一同努力して参りますので何卒よろしくお願いいたします。

診察時間：毎週（火）午前

診療のご予約は、地域医療連携室までお問い合わせください。

受付時間：月～金 午前8:30～午後5時
FAX：088（837）6701



高知医療センターに、世界の王さんが現る！

病院長 堀見忠司

平成 20 年 11 月 16 日（日）、突然、あの王貞治氏が高知医療センターに見えられました。某高知市市会議員のお世話で、王さんの知り合いのお見舞いです。

王貞治前ソフトバンク監督（以下、王さん）は、通常のエレベーターで患者さんの部屋に行き、しばらく歓談されました。病室はびっくり仰天！当該フロアでも「あの人、王さんじゃない？」、「うそ！」、「どうして！？」など、突然院内に大きなざわめきが起こりました。信じられない光景に、みんな立ち止まって呆然と王さんを見つめていました。さすがにフラッシュはありませんでしたが、一本足打法の世界のホームランキングの王さんの“オーラ”がジワーンと出ていて、みんなは立ちすくみ、うっとりで見惚れていました。

たまたま居合わせた看護師や主治医も一緒になってカメラに入りました。また、王さんの知り合いと同じ病室の他 3 名の患者さんも一緒に写真に収まりながら、30 分位お見舞いをされて帰途に着かれました。

世の中は良くしたものです。いつも土曜・日曜を返上して、院内の庭園やお花のお世話をされている病院ボランティア・ハーモニーこうちの梅田さんが、病院玄関でいつものようにボランティア活動をしていました。そこに王さんが病室から降りてきました。そして 2 人は偶然ばったり会いました。若い頃はユニバシアードにも参加して、陸上競技で鳴らした梅田さんに、王さんは『一緒に写りましょう』と気さくに優しく声をかけられ、私のカメラにばっちり写りました（写真 1）。



写真 1：王貞治氏とハーモニーこうち・梅田さん

「世界の王さん」の出現で言うわけではありませんが、高知医療センターは昨年も世界各国からたくさんの方が研修や視察に来られました。

また、たまたま居合わせた患者さんもパチリ。その患者さんは、後で「何としてもあの写真が欲しい。家宝にする。」と言ってきました。

整形外科の黒住健人先生を通じて、フランスのパリ第 5 大学医学部から Miss ミラベル（医学生）が 2 ヶ月間、高知医療センターで整形外科、救命救急科、呼吸器科、放射線科、皮膚科、内分泌科、消化器外科を研修され、貴重な収穫を上げて感激して帰国されました（写真 2）。



写真 2：堀見病院長と Miss ミラベル（パリ第 5 大学医学部・医学生）

また、例年の通り高知県により、高知県の姉妹州であるフィリピン、ベンゲット州の医師視察団が地域保健システムの研修に、JICA 事業高知女子大学を通じて、アフガニスタン、アンゴラ、フィジー、インド、メキシコ、ネパール、ニカラグア、ナイジェリア、ベトナム、ケニアの 10 カ国から医師たちが、そして高知県を通じて、中国安徽省の医師団の視察訪問に来られました。高知医療センターが徐々に国際的な病院になってきている感じがいたします。（写真 3）

世界に誇れる素晴らしい高知医療センターになることを目指して、私たちは今後も精進していきたいと思えます！



写真 3：堀見病院長と各国から訪問された方々



小林 和真 (こばやし かずま)

- ①所属科：腫瘍内科（医長） ②経験年数：15年 ③専門分野：がん化学療法（特に消化管）
 ④職歴：平成6年に長崎大学第二外科（現移植・消化器外科）入局以降、関連病院で研修後、平成20年10月1日から現職 ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など：日本外科学会認定医、ASCO（アメリカ臨床腫瘍学会）active member、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本緩和医療学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本移植学会、肝移植研究会 ⑥趣味：音楽・美術鑑賞
 ⑦地域の方々へメッセージをお願いします！

昨年10月より、当院のメンバーに加えていただきました。不慣れな部分も多いと思いますが、よろしくお願いたします。外科医としての経験を活かして、消化器がんを中心として、将来は、固形がん全般を診られるようになりたいと思います。術後補助化学療法も大歓迎ですので、外科系の先生方、症例がありましたら、よろしくお願いたします。



寺石 文則 (てらいし ふみのり)

- ①所属科：消化器外科（医長） ②経験年数：13年目 ③専門分野：消化器外科（消化器がん、炎症性腸疾患および肛門疾患）
 ④職歴：岡山大学および関連施設、米国 MD アンダーソン癌センター、チクバ外科・胃腸科・肛門科病院などを経て、平成20年11月より高知医療センター消化器外科勤務 ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など：日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本消化器外科学会、日本大腸肛門病学会、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会 ⑥趣味：トライアスロン、山登り、パドミントン
 ⑦地域の方々へメッセージをお願いします！

現在まで消化器がんの臨床および基礎研究、最近増加傾向にある炎症性腸疾患の臨床に従事してきました。また、前任地では肛門疾患の手術にも携わってきました。胃腸疾患でお困りの症例がありましたら何なりとご相談ください。また、炎症性腸疾患の診療にも携わっていきたくと考えておりますので、該当患者さんがおられましたら、ご紹介の程よろしくお願申し上げます。



松本 朝子 (まつもと ともこ)

- ①所属科：消化器内科、一般外科・乳腺内分泌外科（副医長） ②経験年数：11年 ③専門分野：消化器外科、一般外科
 ④職歴：岡山大学、国立福山病院、津山中央病院、消化器内視鏡のトレーニングで湘南鎌倉総合病院に勤務。平成20年12月1日より、高知医療センター消化器外科・一般外科・乳性内分泌外科勤務。⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本乳癌学会、臨床腫瘍学会など ⑥趣味：読書
 ⑦地域の方々へメッセージをお願いします！

前任地でも消化器疾患を中心に乳腺疾患、救急疾患など幅広く診療してまいりました。当院では、消化管中心の診療を考えておりますが、「女性ならではの」を活かしての診療もしていきたいと思っております。お困りの症例がございましたら、ご紹介の程よろしくお願いたします。



神田 郁乃 (かんだ いくの)

- ①所属科：形成外科（副医長） ②経験年数：9年目 ③専門分野：形成外科全般 ④職歴：徳島大学病院、十全総合病院 ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など：形成外科学会 ⑥趣味：ダンス、食歩き
 ⑦地域の方々へメッセージをお願いします！

今年1月より医療センター勤務となりました。これまで四国内を転々としてきましたが高知は初めてです。外出時には地図が手放せません。徳島大学病院では形成外科全般・美容・基礎研究、関連病院では皮膚科を併任したりという経験させていただきました。高知医療センターでは救急外傷が多いとききましたので、これまで経験が少ないだけに得意分野にできるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願いたします。



徳山 俊一郎 (とくやま しゅんいちろう)

- ①所属科：消化器内科（副医長） ②経験年数：8年 ③専門分野：消化管
 ④職歴：岡山大学第1内科入局、岡山大学附属病院、香川県立中央病院、済生会今治病院を経て、平成20年10月より高知医療センター消化器内科勤務 ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など：内科学会認定医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医 ⑥趣味：スポーツ観戦、映画鑑賞
 ⑦地域の方々へメッセージをお願いします！

愛媛県出身で長崎大学を卒業し岡山大学に入局後、岡山大学の関連施設にて勤務しておりました。この度、内視鏡技術の向上を目指し高知医療センターでお世話になる事になりました。初めての高知での生活にまだ慣れておりませんが、素晴らしい環境のもと、内視鏡修行に精を出しております。今後とも何卒よろしくお願いたします。



田中哲文 (たなか さとふみ)

- ①所属科：心臓血管外科（副医長） ②経験年数：7年目 ③専門分野：心臓血管外科全般（虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患、末梢血管など） ④職歴：福井大学病院で研修後、高知市民病院、高知医療センター、福井大学病院を経て、平成21年1月1日より高知医療センター心臓血管外科勤務 ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など：日本外科学会専門医、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、血管外科学会、脈管学会 ⑥趣味：カメラ、パソコン
 ⑦地域の方々へメッセージをお願いします！

今年1月より高知医療センター勤務となりました。心臓血管外科の領域は緊急を要することも多い領域ですが、積極的に対応させていただきたいと思っています。まだまだ若輩者ですが、よろしくお願いたします。

退職者 平成20年12月31日付

心臓血管外科・医長 宮川弘之、金光真治 循環器科・医長 堀崎孝松
 心臓血管外科・副医長 田邊佐和香 形成外科・副医長 五石圭一

第 22 回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

病院前救護体制における 指導医等研修 in 神戸

2008年12月5～7日

救命救急科 副医長 石原 潤子



石原潤子医師

これまで救急医療は医療機関における診療体制の整備に注目が集められていました。しかし、心肺停止などの重篤な傷病者では、救急現場や搬送途上で適切な医療が施されたか否かが傷病者の命を左右することが明らかとなるにつれ、病院前救護が注目されるようになってきました。この病院前救護全般の質を保障するシステムがメディカルコントロール(MC)体制です。

救急隊は救急搬送と応急処置を業務とし、総務省消防庁が管轄していますが、救急救命士は救急救命処置を行う医療補助職種であり、厚生労働省の管轄になります。病院前救護にかかわる行政、団体の関与は複雑であり、これらをまとめる組織として、消防機関と医療機関が連携するメディカルコントロール(MC)協議会を各地域に設立しMC体制を確立することが求められ、現在、都道府県単位及び地域単位に287のメディカルコントロール(MC)協議会が設置されています。

このような中で厚生労働省が毎年実施しているのが、この『病院前救護体制における指導医等研修』です。今回の研修目的は、「救命救急等に対する医師の指示体制及び救急救命士等が行う処置を医師が検証する体制を構築するための研修であり、これにより救急隊員が行う応急処置等の質の向上を図り、もって病院前救護体制の向上を図ること」でした。

今年も離島も含め、北海道から沖縄までの全国各地から、救急の現場やメディカルコントロール(MC)協議会で活動している医師60名が集まり、高知県からは当院より私と黒住医師の2名が参加しました。

プログラムは、

- 1) MCの役割と必要性
- 2) 救急医療システムの関係法規
- 3) 消防組織の機能と構造
- 4) 心肺停止プロトコール
- 5) 外傷プロトコール
- 6) 大規模災害時のMC
- 7) MCの計画・実行・検証・是正の方法論の講議
- 8) MC体制の現状と問題点
- 9) 事後検証の実際

10) MCに係る医師とその責任者のあり方のワークショップ形式の研修がありました。

メディカルコントロール(MC)の役割は、医学的観点から救急活動の質を保障することであり、オフラインコントロールとオンラインコントロールがあります。前者には①プロトコル策定、②事後検証の実施、③再教育体制の整備、後者には救急活動時の医師の指示・指導・助言体制が含まれます。事後検証内容にはプロトコルの検証も含まれ、必要により見直しされるようになっていきます。

全国におけるMC協議会の活動内容は、地域による差異が大きいのが実情です。救急医療が地域性を非常に反映するものである以上、当然の部分もありますが、まだまだ発展途上であることも確かです。このような研修を通して、地域における病院前救護の特色を知り、より質の高い病院前救護や地域ぐるみのMC体制について、参加された全国の医師たちとディスカッションできたことは、非常に有意義でありました。

また、開催された12月は神戸ルミナリエの開催時期でした。私自身は震災以後訪れたことがなく、ルミナリエは初めてでした。美しいルミナリエを見ながら、災害が生じても傷病者を最小限に食い止められるよう、MCを充実させていきたいと思いました。



神戸ルミナリエ



医療法人野並会 高知病院

〒780-0054 高知市相生町 1-35
電話：088 (882) 3211 FAX：088 (883) 3213
URL：http://www.nonami-kai.com/kochi-hp/

(診療科)

整形外科、内科（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科）、
リハビリテーション科

(併設施設)

介護老人保健施設「あいおい」

指定居宅介護支援事業所「しんぼり」

写真：左より：野並誠二院長、清岡学リハビリテーション部門室長
坂本佳看護部長、MSWの森彩子さん



医療法人野並会高知病院は明治 26 年 4 月に開院し、昭和 22 年 8 月に現在の場所に移転しました。平成 15 年 9 月には回復期リハビリテーション病棟を開設し、現在の病床数は一般病棟 26 床、医療療養病棟 50 床、回復期リハビリテーション病棟 48 床の合計 124 床です。高知病院は急性期病院の後方支援病院として、在宅に向けた「医療」「看護」「リハビリテーション」を提供しています。今回は野並誠二院長、清岡学リハビリテーション部門室長、坂本佳看護部長、片岡正和事務長、MSWの森彩子さんと千葉みどりさんにお話を伺いました。

(以下、A：高知医療センター B：高知病院)

A：まず、高知医療センターからご紹介させていただく際の連携について何か問題点などはありましたか？

B：ご紹介をいただいた患者さんのお話を聞いていく中で、高知医療センターからの情報がもう少し欲しかったことがありました。どこまで情報の共有が必要かの判断は大変難しいと思いますが、一例として、患者さんの背景に長い経過のある疾患を持っておられたという情報が不足していたことがありました。その他、患者さんから「高知医療センターは敷居が高くて、私のような者がいっても受入れてくれないだろう」という声をお聞きしたことがあります。

A：情報提供書と一緒に転院サマリーを書いています。転院先の医療機関の皆様にとっては、その中に書かれている内容が理解できない部分もあるようです。必要な情報をきちんと提供できるようにしていきたいです。また、紹介状がなくても診療していますので、県民・市民の皆様気軽に来ていただきたいと思っています。

A：患者さんのご紹介は貴院の近くの医療機関が多いですか？

B：そうですね。距離的に連携しやすいと思います。当院の近くには近森病院や赤十字病院があります。そのため、脳血管パスや大腿骨頸部骨折パスなどはすぐに連携できました。高知医療センターは距離的な問題も確かにあると思いますが、当院で治療できない緊急の患者さんなどを受入れていただいているので安心できます。連携パスは診療の流れが見えますので、今後いろいろな医療施設と連携できるようになればと思っています。

A：回復期リハについてお聞かせください。患者さんは、在宅に戻れる方が多いですか？

B：6割くらいの患者さんが在宅に戻られています。当院は、ほとんどの患者さんがリハビリを目的として入院されており、回復期リハビリテーション病棟で在宅に向けたリハビリを行っています。しかし、どうしても自宅に戻れない患者さんは、医療療養病床で可能な限りのリハビリを行っています。それでもまだ在宅生活が不安な場合は、当院併設の介護老人保健施設「あいおい」に入所していただき、生活リハビリをしながら在宅に戻ることができるように支援をしています。また、在宅での生活を継続しながらデイケアや通所リハビリ、ショートステイなども利用させていただいております。

A：リハビリのスタッフは何名いらっしゃいますか？

B：PT(理学療法士)が17名、OT(作業療法士)が5名、ST(言語聴覚士)が2名です。介護老人保健施設「あいおい」にはPTが3名います。また、リハビリテーションの施設基準は脳血管リハ(I)、運動器リハ(I)、呼吸器リハ(II)となっています。

A：大切にされていることはありますか？

B：チーム医療を大切にしています。多職種が集まり、患者さんやご家族を含めたカンファレンスを行って一緒に目標設定をすることで満足していただける医療の提供に努めています。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございます。



日	曜	2月～																
7	土	第9回高知糖尿病療養指導研究会																
		内容	<table border="1"> <tr> <td>糖尿病外来患者の病識調査からの考察 ～アンケート調査結果と病態との関連～</td> <td>講師</td> <td>中村病院 看護師 戸田和代氏</td> </tr> <tr> <td>糖尿病療養セミナーから個別支援への展開～「3・2・1弁当箱法」と「実物大そのまんま料理カード」を用いた食の支援～</td> <td>講師</td> <td>四万十市民病院 管理栄養士 池一美氏</td> </tr> <tr> <td>当院での糖尿病療養指導チームへの臨床検査技師のかかわり</td> <td>講師</td> <td>幡多けんみん病院 臨床検査技師 森下千佳氏</td> </tr> <tr> <td>糖尿病地域連携パスについて</td> <td>講師</td> <td>幡多けんみん病院 内科部長 岡村浩司氏</td> </tr> <tr> <td>糖尿病の合併症</td> <td>講師</td> <td>高知県立安芸病院 内科医長 中村寿宏氏</td> </tr> </table>	糖尿病外来患者の病識調査からの考察 ～アンケート調査結果と病態との関連～	講師	中村病院 看護師 戸田和代氏	糖尿病療養セミナーから個別支援への展開～「3・2・1弁当箱法」と「実物大そのまんま料理カード」を用いた食の支援～	講師	四万十市民病院 管理栄養士 池一美氏	当院での糖尿病療養指導チームへの臨床検査技師のかかわり	講師	幡多けんみん病院 臨床検査技師 森下千佳氏	糖尿病地域連携パスについて	講師	幡多けんみん病院 内科部長 岡村浩司氏	糖尿病の合併症	講師	高知県立安芸病院 内科医長 中村寿宏氏
		糖尿病外来患者の病識調査からの考察 ～アンケート調査結果と病態との関連～	講師	中村病院 看護師 戸田和代氏														
		糖尿病療養セミナーから個別支援への展開～「3・2・1弁当箱法」と「実物大そのまんま料理カード」を用いた食の支援～	講師	四万十市民病院 管理栄養士 池一美氏														
		当院での糖尿病療養指導チームへの臨床検査技師のかかわり	講師	幡多けんみん病院 臨床検査技師 森下千佳氏														
		糖尿病地域連携パスについて	講師	幡多けんみん病院 内科部長 岡村浩司氏														
		糖尿病の合併症	講師	高知県立安芸病院 内科医長 中村寿宏氏														
		場所	幡多けんみん病院 3階 大会議室	時間	13:00 (開場 12:30) ~ 16:45													
		共催	高知糖尿病チーム医療研修会、バイエル薬品株式会社、第一三共株式会社															
対象	糖尿病療養指導士、糖尿病の療養指導に興味を持つ医療関連職者 (定員 80名) 参加費: 1,000円																	
お問い合わせ: 幡多けんみん病院 薬剤科 三浦雅典																		
8	日	第2回日本褥瘡学会 高知県在宅褥瘡医療セミナー																
		内容	<table border="1"> <tr> <td>在宅での褥瘡対応 (在宅褥瘡予防・治療ガイドブックより) と DESIGN 改訂</td> <td>講師</td> <td>高知赤十字病院 形成外科部長 中川宏治氏</td> </tr> <tr> <td>スキンケアの基本</td> <td>講師</td> <td>高知医療センター 看護局 WOC 認定看護師 片岡薫氏</td> </tr> <tr> <td>進化する介護機器&介護技術～ベッド上で長時間生活する人の「QOL」と「安全」対策のための介護機器と介護技術～</td> <td>講師</td> <td>株式会社モルテン 生体工学研究グループ 主任研究員 藤本真二氏</td> </tr> </table>	在宅での褥瘡対応 (在宅褥瘡予防・治療ガイドブックより) と DESIGN 改訂	講師	高知赤十字病院 形成外科部長 中川宏治氏	スキンケアの基本	講師	高知医療センター 看護局 WOC 認定看護師 片岡薫氏	進化する介護機器&介護技術～ベッド上で長時間生活する人の「QOL」と「安全」対策のための介護機器と介護技術～	講師	株式会社モルテン 生体工学研究グループ 主任研究員 藤本真二氏						
		在宅での褥瘡対応 (在宅褥瘡予防・治療ガイドブックより) と DESIGN 改訂	講師	高知赤十字病院 形成外科部長 中川宏治氏														
		スキンケアの基本	講師	高知医療センター 看護局 WOC 認定看護師 片岡薫氏														
		進化する介護機器&介護技術～ベッド上で長時間生活する人の「QOL」と「安全」対策のための介護機器と介護技術～	講師	株式会社モルテン 生体工学研究グループ 主任研究員 藤本真二氏														
		場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	時間	13:00 (開場 12:30) ~ 16:00													
		主催	日本褥瘡学会 在宅褥瘡ネットワーク委員会 参加費: 無料															
		後援	日本看護協会、全国訪問看護事業協会、日本訪問看護復興財団、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本介護支援専門員協会、科研製薬株式会社															
対象	高知県内の在宅医療従事者 (定員約 100名) ※事前申込みが必要です。FAX または Eメールにて下記まで																	
お問い合わせ: 科研製薬(株) 高知営業所 FAX: 088 (826) 0801 E-mail: kochi@kaken.co.jp																		
22	日	高知アレルギーフォーラム 2009 (講演、アレルギー予防関連の展示、アレルギー相談室)																
		内容	<table border="1"> <tr> <td>アレルギーの予防と治療 花粉症、ぜんそく、食物アレルギーに関する講演</td> <td>講師</td> <td>高知医療センター 土居裕幸氏、国立病院機構高知病院 小倉由紀子氏 高知大学眼科准教授 角環氏、高知医療センター耳鼻咽喉科 山本美紀氏</td> </tr> </table>	アレルギーの予防と治療 花粉症、ぜんそく、食物アレルギーに関する講演	講師	高知医療センター 土居裕幸氏、国立病院機構高知病院 小倉由紀子氏 高知大学眼科准教授 角環氏、高知医療センター耳鼻咽喉科 山本美紀氏												
		アレルギーの予防と治療 花粉症、ぜんそく、食物アレルギーに関する講演	講師	高知医療センター 土居裕幸氏、国立病院機構高知病院 小倉由紀子氏 高知大学眼科准教授 角環氏、高知医療センター耳鼻咽喉科 山本美紀氏														
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	18:00 ~ 19:30													
		主催	財団法人日本アレルギー協会四国支部 共催 高知喘息アレルギー研究会、エーザイ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社															
お問い合わせ 高知医療センター 呼吸器・アレルギー科 土居裕幸 参加費: 無料																		
23	月	第36回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会																
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	17:30 ~													
お問い合わせ: 高知医療センター・救命救急センター																		
27	金	高知の医療を考える公開講座シリーズ その3～高知の脳血管疾患医療を考える公開講座(仮)																
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	18:45 ~													
		共催	高知医療センター、協和発酵キリン株式会社															
お問い合わせ: 高知医療ピーエフアイ株式会社 川田																		

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

あっという間に2008年も過ぎ、早いもので「にじ」も第40号となりました。創刊号から試行錯誤をしながら一杯一杯やってきましたが、今年はもう少し余裕を持ちながら、地域の皆様のお役に立てるような情報を考え、発信していけたら・・・と思っています。また、当初から掲載している「地域医療連携病院のご紹介」では、いろいろな医療機関でお話を伺い、ご協力をしていただきながら各医療機関の特色をご紹介させていただいています。今後とも、院内外の皆様のご協力をいただきながら「にじ」を作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。(尾崎)



平成21年2月1日発行
 にじ 2月号(第40号)
 責任者: 堀見 忠司
 編集人: 地域医療連携広報委員
 特別編集委員
 発行元: 地域医療センター
 地域医療連携本部
 印刷: 共和印刷株式会社

高知医療センター
 〒781-8555 高知県高知市池2125-1
 TEL: 088 (837) 3000 (代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
 Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www2.khsc.or.jp/>